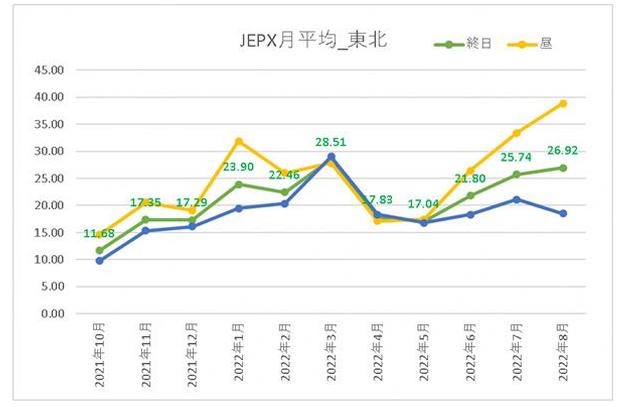


## ■日本卸電力取引所（JEPX）の状況

市場平均の最大は2022年3月の28.51円/kWhであり、需要が増える今夏（8月）においても26.92円/kWhとなっている。このことから、年間平均では25円/kWhという当初の見込は現時点でも妥当と思われる。ただし、昼夜差が広がっていることから、需要の多い昼間でも収益を確保できる電源が必要となる。（＝安定価格のミドル電源が必要）

		終日	昼	夜
直近半年	2022年3月～2022年8月	23.01	27.20	20.29
直近1年	2021年9月～2022年8月	19.88	23.60	17.51



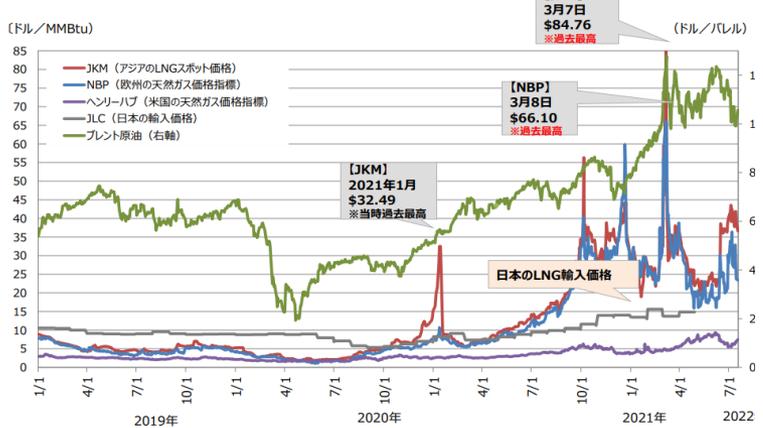
## ■JEPXの今後の推移を測る指標 ①燃料費の動向

JEPXの価格変動は、主に国内での発電に係るコスト（燃料費などが影響）や電力の需給バランス（天候が影響）の変化に起因する。特に天然ガスや石炭などの燃料価格は、世界的な供給バランスを背景に最も高い水準にある。

最近の燃料動向（2022年7月20日資源エネルギー庁「2022年度の電力需給対策について」より抜粋）

- ウクライナ情勢等の影響により、世界的にLNG、石炭等の燃料価格が例年に比して高騰している。
- 加えて6月米フリーポートにて火災が発生し、操業停止の長期化が見込まれるなど、燃料リスクも予断を許さない状況。
- 一方、足下の日本のLNG在庫は、5月以降例年平均を上回っており、おおよそ200万トン前後で推移している。
- 今後も燃料の安定供給に向け、燃料の動向については引き続き注視していく。

### 直近のLNG価格の推移



### 日本の一般炭輸入価格（CIF価格）



出展：2022年7月20日資源エネルギー庁「2022年度の電力需給対策について」

（出所）貿易統計、為替換算については三菱UFJ銀行のTTレートを参照 ※最新は2022年5月時点の輸入価格

## ■JEPXの今後の推移を測る指標 ②ベースロード市場の動向

ベースロード市場は、新電力によるベースロード電源へのアクセスを容易にすることを目的とし、日本全体の供給力の約9割弱を占める大規模電気事業者（旧一般電気事業者など）が保有するベースロード電源（石炭火力・大型水力・原子力・地熱）の電気の供出を制度的に求め、新電力が年間固定価格で購入可能とする市場。年に4回の入札が行われ、次年度1年間分の電力を取引する。

2023年度分の入札が7月に行われた。東北を含む東京エリアは、取引が成立した電力量が2400kWと昨年の1回目の3分の1程度に留まり。一方で取引価格は1kWh当たり33円と昨年の3倍となり過去最高となっている。

ベースロード取引市場 取引結果（東北含む東京エリア）

	2022年度分				2023年度分
	1回目	2回目	3回目	4回目	1回目
約定価格 (円/kWh)	10.92	12.16	13.42	14.87	33.06
約定量 (Mwh)	6.6	5	146.7	8	2.4

## ■エネルギー価格高騰による他電力会社の動き

燃料費高騰の影響を受けたJEPXの高騰を受けて、大手電力各社も値上げを実施。これまでは、燃料調整費によりこの高騰分を調整してきたが、この調整費では調整できないコストが大幅に増加しているため標準メニューの契約単価を値上げする電力会社も現れている。

なお、東北電力が7月29日にこの標準メニューの電気料金の値上げを、11月以降に実施することを発表。企業向けだと16～18%の値上げになる試算。

出典：東北電力株式会社  
「自由化部門お客さまの電気料金の取り扱いについて」

### 4-1. 高圧以上の電気料金単価見直しの概要（値上げ内容、適用時期）

13

- 高圧以上のお客さま（約61,800口）には、現在のご契約満了後の新しい契約期間から、現行の基本料金および電力量料金に一定額を上乗せした新たな電気料金単価を適用させていただきます。
- なお、新たな電気料金単価については、2022年11月1日以降の適用とさせていただきます。
- また、当社と新規にご契約を希望されるお客さまにつきまして、2022年11月より、新たな電気料金単価での契約を選択いただけます（見直し後の標準メニューで受付を開始し、契約開始は2022年11月以降となります）。

#### 【値上げ幅（現行単価からの加算額）】

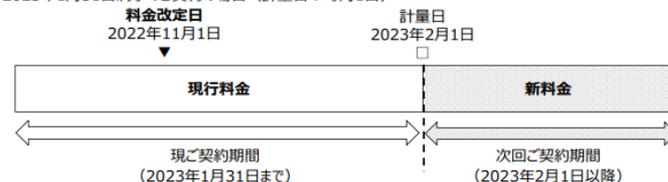
- 契約種別にかかわらず、一律に以下の金額を上乗せさせていただきます。

	基本料金単価（税込）	電力量料金単価（税込）※
特別高圧	3 5 2 円 0 0 銭/kW	3 円 8 5 銭/kWh
高 圧	3 5 2 円 0 0 銭/kWh	3 円 9 7 銭/kWh

※特別高圧と高圧の単価差は、送電ロスの差などを勘案したものです。

#### 【見直し後の電気料金単価の適用イメージ】

（例）2023年1月31日満了のご契約の場合（計量日：毎月1日）



All Rights Reserved. Copyrights © 2022, Tohoku Electric Power Co., Inc.

## ■収支シミュレーション（現在検討中の内容）

		市場平均価格 円/kWh による想定ケース				
		①23.00	②24.97	③28.00	④30.00	
現在の電気料金	A	千円	127,724	128,544	129,820	130,641
あい・あーる電気料金	B	千円	124,697	125,973	127,918	129,224
削減額	C=A-B	千円	3,027	2,571	1,903	1,416
	C/A		2.4%	2.0%	1.5%	1.1%
営業利益		千円	14,487	12,896	10,431	8,827
			12%	10%	8%	7%

市場取引価格や小売価格の相場上昇について、あい・あーるの収支シミュレーションに反映させていく考え。市場平均価格が30円/kWhの場合でも小売価格を適切に設定することで、7%程度の営業利益を見込む試算を行っている。調達電力の確定と併せてシミュレーションの精緻化を進めていく。